

# 2019年度 上半期業績の概要

2019年11月22日



大樹生命保険株式会社

 日本生命グループ

1. 決算のポイント	… P 1
2. 収支の状況	… P 2
3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	… P 3
4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	… P 4
5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕	… P 5
6. 損益計算書・貸借対照表・健全性	… P 6

# 1. 決算のポイント

- 2019年度上半期決算は、増収・減益
  - ✓ 保険料等収入は、再保険収入の増加により増収  
ただし、再保険収入を除くと減収
  - ✓ 基礎利益は、利差損益が改善したものの、危険差益が減少したことにより減益
  
- 保険成績
  - ✓ 新契約業績は、件数・契約高・年換算保険料が減少
  - ✓ 保有契約業績は、件数は増加、契約高・年換算保険料は減少
  
- 健全性を示すソルベンシー・マージン比率は、前年度末から79.7ポイント増加の1,211.9%

## 2. 収支の状況

- 保険料等収入は、一時払外貨建養老保険に関する再保険収入が増加したことから、前年同期比9.2%増の3,782億円。ただし、再保険収入を除いた保険料は前年同期から減少。
- 基礎利益は、利差損益が改善したものの、保険料率改定の影響に加え、海外金利の低下によって外貨建保険の最低保証に係る責任準備金の繰入が増加したこと等により危険差益が減少したことを主因に、前年同期比34.9%減の195億円。
- 中間純利益は、基礎利益が減少したこと等から、前年同期比72.0%減の39億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2018年度 上半期	2019年度 上半期	前年同期比
			増減率
保険料等収入	3,462	3,782	+ 9.2
保険料	3,455	2,981	▲ 13.7
基礎利益	299	195	▲ 34.9
利差損益	▲ 138	▲ 134	△ 2.9
費差損益	32	18	▲ 41.9
危険差益	405	310	▲ 23.4
中間純利益	140	39	▲ 72.0

(注) 増減率の“△”は改善



### 3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

- 新契約年換算保険料は、海外金利の低下に伴い、一時払外貨建養老保険「ドリームロード」の販売が減少したこと等により、前年同期比17.4%減の188億円。

(単位: 千件、億円、%)

区 分	2018年度 上半期	2019年度 上半期	前年同期比
			増減率
新契約件数	117	107	▲ 8.6
新契約高	5,303	4,502	▲ 15.1
新契約年換算保険料	228	188	▲ 17.4

(注) 「新契約件数」は、新契約に転換後契約を加えた数値

<参考> 日本生命との商品相互供給により販売している保険商品の新契約年換算保険料

◆ 当社から日本生命へ商品供給 ※ 上記計表の新契約年換算保険料に含まれています。

(単位: 億円、%)

「一時払外貨建養老保険 ドリームロード」	52	41	▲ 20.5
◆ 日本生命から当社へ商品供給 「通増定期保険 経営サポート」 「ニッセイ学資保険」「ニッセイこどもの保険」 「プラチナフェニックス」	3	3	▲ 14.7

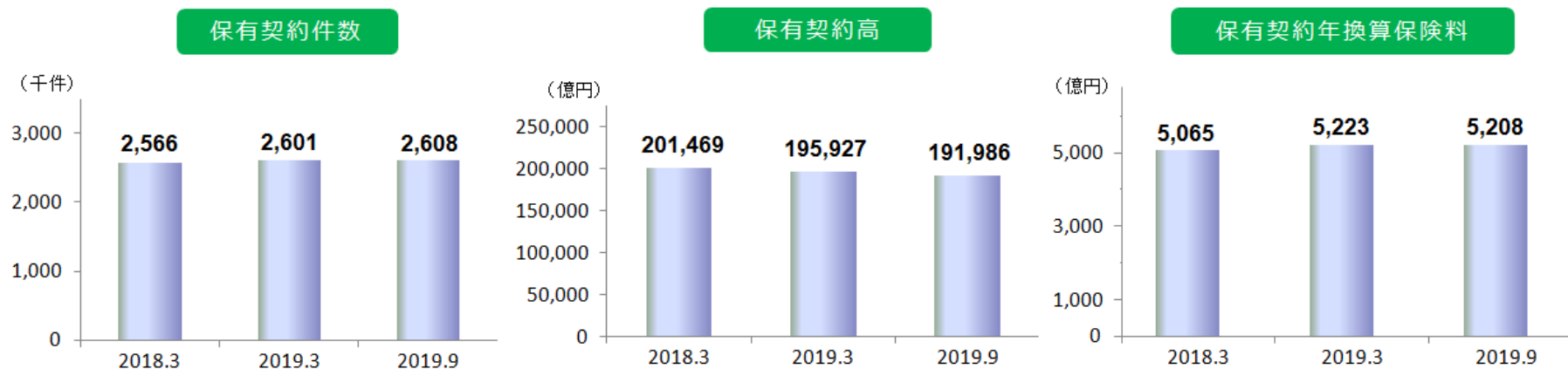


## 4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

- 保有契約件数は増加したものの、保有契約年換算保険料は円高の影響で減少したことにより、前年度末比0.3%減の5,208億円。

(単位:千件、億円、%)

区 分	2018年度末	2019年度 上半期末	
			前年度末比 増減率
保有契約件数	2,601	2,608	+ 0.3
保有契約高	195,927	191,986	▲ 2.0
保有契約年換算保険料	5,223	5,208	▲ 0.3



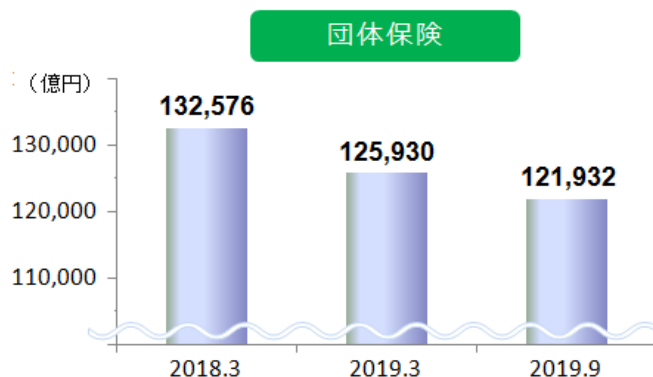
## 5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕

- 団体保険は、総合福祉団体定期保険の販売が好調に推移した一方、団体信用生命保険等の保有契約高が減少したことから、前年度末比3.2%減の12兆1,932億円。
- 団体年金保険は、一般勘定の保有契約高が減少したことから、前年度末比1.9%減の7,945億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2018年度末	2019年度 上半期末	
		2019年度 上半期末	前年度末比 増減率
団体保険（保有契約高）	125,930	121,932	▲ 3.2
団体年金保険（保有契約高）	8,096	7,945	▲ 1.9
一般勘定	7,078	6,897	▲ 2.6
特別勘定	1,018	1,047	+ 2.9

(注) 団体年金保険の保有契約高は、責任準備金の金額



## 6. 損益計算書・貸借対照表・健全性

- 中間純利益は、基礎利益が減少したこと等から前年同期比で減少。
- 金利低下に伴い債券の含み益が増加したこと等により、ソルベンシー・マージン比率は前年度末から79.7ポイント増加の1,211.9%、実質純資産額は前年度末比9.1%増の1兆4,469億円。
- 有価証券の含み損益は、金利低下に伴う内外債券の含み益が増加したことから前年度末比で増加。

### < 損益計算書 >

(単位: 億円、%)

区 分	2018年度 上半期	2019年度 上半期	前年同期比 増減率
経常収益	4,637	5,201	+ 12.2
保険料等収入	3,462	3,782	+ 9.2
保険料	3,455	2,981	▲ 13.7
資産運用収益	1,039	1,314	+ 26.4
経常費用	4,426	5,033	+ 13.7
保険金等支払金	2,853	2,709	▲ 5.1
資産運用費用	407	924	+ 126.7
事業費	496	485	▲ 2.3
経常利益	210	168	▲ 20.0
中間純利益	140	39	▲ 72.0

### < 有価証券 含み損益 >

(単位: 億円)

区 分	2018年度末	2019年度 上半期末	前年度末比 増減額
時価のある有価証券の含み益	7,144	8,292	+ 1,147
国内公社債	4,778	5,271	+ 493
国内株式	1,499	1,407	▲ 91
外国証券	803	1,534	+ 730
その他	63	79	+ 15

### < 貸借対照表・健全性 >

(単位: 億円、%)

区 分	2018年度末	2019年度 上半期末	前年度末比 増減率
総資産	75,046	75,867	+ 1.1
有価証券	57,548	57,928	+ 0.7
貸付金	10,334	10,158	▲ 1.7
有形固定資産	2,372	2,348	▲ 1.0
負債	69,566	69,900	+ 0.5
保険契約準備金	63,510	64,244	+ 1.2
責任準備金	62,631	63,399	+ 1.2
価格変動準備金	670	686	+ 2.4
純資産	5,480	5,967	+ 8.9
ソルベンシー・マージン比率	1,132.2%	1,211.9%	+ 79.7 ポイント*
実質純資産額	13,262	14,469	+ 9.1
実質純資産比率	18.1%	19.6%	+ 1.5 ポイント*

(注1) \* のポイントは前年度末との差

(注2) 「実質純資産比率」 = 「実質純資産額」 ÷ 「一般勘定資産」